

平成8年度厚生省心身障害研究
「不妊治療の在り方に関する研究」

多胎妊娠母体合併症防止に関する研究
(分担研究：多胎妊娠の管理に関する研究)

分 担 研 究 報 告 書

研究協力者 自治医科大学産婦人科 佐藤 郁夫, 水上 尚典

【要 約】

平成6年度ならびに平成7年度厚生省心身障害研究「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」において、以下の事柄が明らかとなった。(1) 多胎妊娠では妊娠中毒症やHELLP症候群等、直接母児生命を脅かす合併症の頻度が高い。(2) 双胎妊娠では中毒症の有無にかかわらず、妊娠中、血小板やアンチトロンビンIII(AT-III)活性の減少を示す患者が存在する。(3) 血小板数 $<100 \times 10^9/L$ and/or AT-III活性 $<65\%$ を示した患者(全双胎例中約15%)はHELLP症候群時に認められるGOT/GPTパターンと酷似したGOT/GPTパターンを高率(約50%)に示すようになる。来年度は双胎妊娠期間中の血小板数変動、AT-III活性変動と分娩前後GOT/GPT変化との関連を明らかにするためにprospective studyを行う。本年度はそのためのプロトコール作成を行った。

【見出し語】

多胎妊娠, 母体合併症, HELLP症候群, 前方視調査, プロトコール

【研究方法】

- 1) prospective cohort study. プロトコールは以下の通りとする。
- 2) 対 象
東北大学産婦人科, 自治医科大学産婦人科, 聖隷三方原病院産婦人科, 大阪府立母子保健総合医療センター, 鹿児島市立周産期医療センター, 宮崎医科大学産婦人科で妊娠30週以前より管理された双胎妊婦とする。
- 3) 選択基準
 1. 基礎体温, 不妊治療, CRL等によりDatingの確認が行われている。
 2. 妊娠初期に超音波断層法にて膜性診断がされ, かつ出生後に病理学的所見にて膜性の確認が行われている。
- 4) 方 法
図1に示す手順で血液検査を行う。これらの結果を後に集計・解析し, 血小板・

AT-III活性減少が多胎妊娠・分娩に及ぼす影響、妊娠中毒症との関連について検討する。

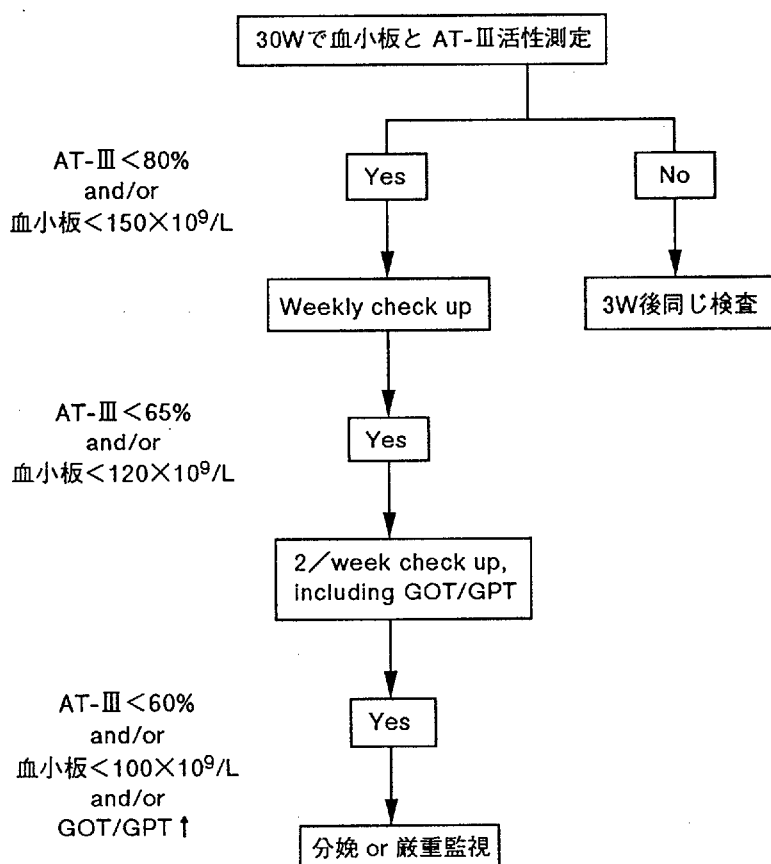
【考 察】

Prospective cohort study により双胎妊娠のかかえる血液凝固学的問題が一層明らかとなる。また、双胎妊娠誘発性血小板減少症/低AT-III血症の出現頻度を正確に知ることができる。これらとHELLP症候群との関連を明らかにすることは、治療困難であった重症HELLP症候群の発症機転を明らかにすることである。本研究成果は発症予防に寄与することが予想される。

【文 献】

1. 水上尚典, 佐藤郁夫: 多胎妊娠における母体合併症の研究. In 平成6年度厚生省心身障害研究報告書「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」, 主任研究者 寺尾俊彦 pp97-104, 1995.
2. 佐藤郁夫: 母体合併症とその対策に関する研究. In 平成7年度厚生省心身障害研究報告書「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」, 主任研究者 寺尾俊彦 pp91-92, 1996.

図1. 双胎の母児管理（血液検査による）





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要 約】

平成 6 年度ならびに平成 7 年度厚生省心身障害研究「多胎妊娠の管理及びケアに関する研究」において、以下の事柄が明らかとなった。(1)多胎妊娠では妊娠中毒症や HELLP 症候群等、直接母児生命を脅かす合併症の頻度が高い。(2)双胎妊娠では中毒症の有無にかかわらず、妊娠中、血小板やアンチトロンビン(AT-)活性の減少を示す患者が存在する。(3)血小板数 $<100 \times 10^9 / \text{L}$ and/or AT- 活性 $<65\%$ を示した患者(全双胎例中約 15%)は HELLP 症候群時に認められる GOT/GPT パターンと酷似した GOT/GPH パターンを高率(約 50%)に示すようになる。来年度は双胎妊娠期間中の血小板数変動、AT- 活性変動と分娩前後 GOT/GPT 変化との関連を明らかにするために prospective study を行う。本年度はそのためのプロトコール作成を行った。